

ぽっかぽか 10月

天間幼稚園
園長だより
第 5 号
令和 4. 9. 29



**子どもの心を支えるもの、それは、自分自身が愛されているという実感！
それは、一緒に歩いたり、見たり、聞いたり、味わったりする中で培われる！**

朝夕は、しだいに涼しさを感じる季節となりましたが、保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より天間幼稚園の教育活動にご理解ご協力をいただき、心から感謝いたします。夏休み明け、元気な子どもたちの顔を見てほっとしたのも束の間、新型コロナウイルス感染症が広がりを見せ、子どもたちにとっては、つらい時間となってしまいました。しかし、保護者の皆様の献身的なご協力により、終息に向かっていることに心から感謝するとともに、教職員の体調についてまでも心配をしてくださる言葉を耳にして、涙が出るほどうれしく、天間幼稚園の教職員であることを誇りに感じております。

さて、自分のことを大切に思える気持ち（自尊感情）には、社会的自尊感情（根拠のある自信）と基本的自尊感情（根拠のない自信）の2つがあります。

社会的自尊感情（根拠のある自信）は、他の人と比べて、「できることがある」「役に立つ」「優れている」と思える一時的な感情で、褒めたり、承認したりすることで培われます。

社会的自尊感情を熱気球に例えますと、褒められたり、認められたりすれば、熱風が吹き出すように、熱気球は大きく膨らんで舞い上がっていきませんが、失敗をすると途端に、熱風が送られなくなり、膨らんだ熱気球はあつという間につぶれてしまう危うさがあります。

逆に、基本的自尊感情（根拠のない自信）は、他の人と比べるのではなく、「生まれてきて良かった」「このままでいいんだ」「自分は自分なんだ」と思える絶対的な感情です。

例えば、童謡「ぞうさん」の歌詞にあるように、ぞうさんは、他の動物たちと比べると、とても鼻が長く、その面だけを見ると友達からはずれます。でも、お母さんも鼻が長いので、お母さんと同じ鼻をもつ私は、「私のままでいいんだ」という気持ちになります。

つまり、「みんなと一緒に」ということが大切で、基本的自尊感情は、お家の人や友達と一緒に時間を過ごす中で、遊んだり、勉強したり、夢中になったり、喜んだり、悲しんだりする共有体験を通して育つものだそうです。たとえ失敗したり、困難なことに出会ったりしても、「失敗したって自分は自分」「だれだって同じように失敗することはある」「あの時がんばれたんだから、今度もがんばれる」「また次にがんばればいいや」というように「立ち直る力」（レジリエンス）ともなります。

本日提案させていただいた「おやこんぼ」「ファミリー弁当」の日常化は、そのような意味でもとっても大切です。家事や仕事でお忙しい中ですが、一緒に料理をしたり、食事をしたり、お風呂に入ったり、本を読んだり、遊んだりして、わずかでも言葉を交わし、子どもたちが愛されているという実感をもてるようにしていただければ嬉しく思います。

子どもたちの自尊感情がさらに高まり、愛されているという実感を支えに、笑顔で園生活がおくれますよう、今後ともご支援ご協力をよろしく願いいたします。

子育てポイント

○甘えない人が自立するのではなく、幼少期に十分甘えることができた人が自立できる。

自立の反対は甘えだから、自立させようと思ったら、甘えさせないことだという考えがあります。しかし、自立しようとする意欲のもとになるのは安心感で、安心感はどこから培われるかという甘えからです。だから、甘えない人が自立するのではなく、甘えたことのある人が自立できるのです。

自立につまずく人は、幼少期に十分な甘えを経験していません。手のかからない子だった。聞き分けのよい子だった。何でも自分でできた。だだをこねたりすねたりしなかった。これは、やせがまん。甘えが不足していたかもしれません。

遊びたい放題、食べたい放題、買い放題など、好き放題の甘えではなく、目と目を合わせて、抱きしめて、声をかけて、世界中で一番大切な存在がお子さんであることを伝えていきたいですね。



子どもたちを幸せに導く3つの魔法

- 幸せを運ぶ魔法の呪文 「ありがとう」
- 幸せを運ぶ魔法のプレゼント 「ご挨拶」
- 幸せを運ぶ魔法のお顔 「にこにこ笑顔（スマイル）」



天間幼稚園の子どもたちは、普段から、本当に元気よく笑顔で挨拶をしてくれます。また、ありがとうということばも当たり前のように出せる子どもたちです。私は、ただそれだけで、うれしくなって、今までの苦労はすべて吹き飛んで、幸せな気持ちになり、声をかけてあげたくなります。そんな子どもたちが、更に磨きをかけて、かわいがられる子に育つために、日頃から子どもたちに話している「幸せを運ぶ3つの魔法」について書かせていただきます。

まず初めに、**幸せを運ぶ魔法の呪文「ありがとう」**です。

「ありがたい」を漢字で書くと「有難い」＝「有ることが難しい」と表記するように「めったにない」という意味が含まれています。

特に、新型コロナウイルス感染症によって、私たちの日常が奪われ、これまで「当たり前」に行われてきたことが思うようにできない事態に直面して、なお一層、「当たり前」が「有難い」こと、また、「幸せなこと」であったと気づかされた方も多かったのではないかと思います。

人の究極の幸せは、「人の役に立つこと」だと言われます。

「ありがとう」の一言で、今までの苦労が嘘のように消えて幸せな気持ちになったという話をよく聞きます。

そんな意味でも、私たちが、すべての事柄に感謝して、**幸せを運ぶ魔法の呪文「ありがとう」**を積極的に口に出して、子どもたちに伝え、幸せに導いていきたいと思っています。



次に、**幸せを運ぶ魔法のプレゼント「ご挨拶」**です。

「挨拶」も「ありがとう」と並んで対人関係においてはとても大切な言葉です。

天間幼稚園では、教職員が率先して、正しい挨拶を子どもたちに伝えていこうと努力しています。

教え込むのではなく、繰り返しその大切さと気持ちの良さを伝え、挨拶が自然にできるように、正しい姿を子どもたちに示しています。

「ありがとう」が受動的なものに対して、「挨拶」は能動的です。

特に、朝一番の元気の良い挨拶「おはようございます」は、家庭から幼稚園に気持ちを切り替え、今日一日を楽しく過ごしたいという子どもたちの宣言にもなっていますし、私たち教職員の頑張る気力にもなっています。

自分から積極的に挨拶することで、相手も自分も「幸せな気持ちになれる」ことを子どもたちに伝えていきたいと思っています。



最後に、**幸せを運ぶ魔法のお顔「にこにこ笑顔（スマイル）」**です。

笑顔は世界共通語、笑顔は最良の薬、笑顔は人を美しくする、笑顔は人の心を溶かす、笑顔は広がっていく、笑門来福（笑う門には福来る）と言われるように対人関係にとって最も大切な表現です。

新型コロナウイルス感染症拡大によって、暗い気持ちになりがちですし、ソーシャルディスタンスが求められ、声の大きさも制限され、その上、マスク着用ですから、「にこにこ笑顔（スマイル）」を作るのも大変です。

しかし、だからこそ、保護者の皆様と一緒に、今まで以上に、身振り手振りを加え、表情豊かに、元気いっぱい子どもたちに笑顔を届けたいと思っています。

そして、**今を生きることが最良の幸せであることを伝えていきたい**と感じています。

